

I 総括的概要

2021年度は「グローバル経済」の終焉と「不和の世紀」の幕開けとして、歴史に刻まれる可能性すらある年度でありました。2022年2月末に同時進行した、ロシアによるウクライナ侵略と北京冬季オリンピック・パラリンピックは「戦争と平和」のコントラストが実に鮮烈なものとなりました。

コロナ禍からの回復がいまだ見通せない我が国経済は、エネルギー資源を始めとする原材料の急騰や急激な「円安」、半導体不足などに代表される部品調達に困難を極め、操業を一時的に休止する企業も現れました。

今求められるのは「経済構造の再編成」です。本年1月に内閣府が経済財政諮問会議に提出した「中長期の経済財政に関する試算」では目標が示され、その柱は、「科学技術立国の実現」「デジタル田園都市国家構想」「経済安全保障」です。これらの実現に向けて多くの施策が立案され、急激な変化に対応する企業を強力に支援しようとする国の意志だと思えます。

「企業と地域の応援団」を自任する商工会議所は、地域振興を第一に、地域内の経済循環を念頭に活動を推進しました。新型コロナウイルス感染症により疲弊する事業所支援として、国・県・市の各種施策の利用や申請に全力を挙げサポートしました。またコロナ禍克服に向けた取り組みとして、会員事業所従業員の安全な就労支援のため新型コロナウイルスワクチンの接種事業にも取り組みました。

本年の事業活動の中で実感した成果は、商工会議所設立の精神である「会員事業の互助互恵」の発露であります。今年度は大胆な意識の変革、すなわち「グローバルに考え、ローカルに行動する」ことが「地域経済構造の再編成」へと繋がるものと実感し、今後は「地域社会の互助互恵」へと広げていくことが重要であると考える年となりました。

本年の事業活動の詳細は以下のとおり報告いたします。